

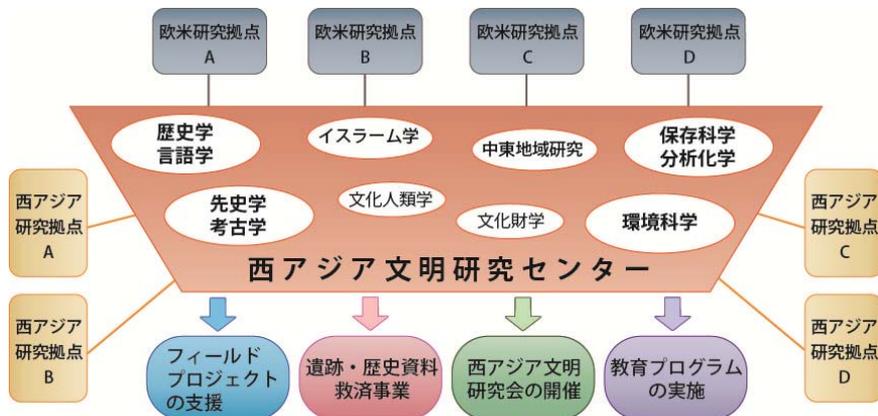
拠点名称：国際研究拠点としての「西アジア文明研究センター」の確立

拠点代表者：人文社会系・教授・山田 重郎

研究拠点形成計画の概要

平成24～28年度の5年間、科学研究費補助金・新学術領域研究（研究領域提案型）「現代文明の基層としての古代西アジア文明－文明の衝突論を克服するために－」（代表：常木晃）の助成を受けて、学内に新拠点として「西アジア文明研究センター」（プロジェクト研究棟3階）（以下「センター」とする）を設け、古代西アジア文明の学際的研究の組織化と研究拠点の形成に取り組んできた。本計画は、これまでの努力を継続し、更なる外部資金の獲得をへて、当該分野における国際的研究拠点の形成を目指す。この目的達成のために特に以下の活動を実施しながら、「センター」の活動のさらなる充実と国際化を推進する。

- (1) 海外調査研究の支援： 各中核教員により行われているイラン、トルコ、イラク・クルディスタンなどでのフィールド・プロジェクトと欧米の研究拠点との共同研究プロジェクトを支援し、それぞれの成果について学術的情報や実施のノウハウなどの諸情報を蓄積して、「センター」関係研究者の間で共有する。
- (2) 遺跡・歴史資料救済事業： 「センター」の事業として、西アジア地域で相手国政府の要請による緊急に救済を要する遺跡や歴史資料などの文化財調査や保存事業プロジェクトの立ち上げを模索・実施する。
- (3) 西アジア文明研究会の開催： 「センター」主導で、研究会を定期的に行い、考古学・歴史学・言語学・文化人類学などの人文諸科学と、地質学・生態学などの環境科学、および化学分析・保存などの文化財科学を融合させた新たな西アジア文明学の構築を推進する。
- (4) 教育プログラム： フィールド教育プログラムを実施し、調査研究のノウハウを大学院生・学生に教授する。また、上述(3)の「センター」が主導する研究会に大学院生・学生を積極的に参画させ、学内では、総合科目「西アジア文明学への招待」を実施し、広く当該分野を学生・一般に紹介する。



研究拠点形成に係る研究の概要

最重要の産油地域にして、イスラーム世界全体の動向に大きな影響力を持つ西アジア（中東）地域は、先進国の政治的・経済的野心や利権追及の舞台になるなか、自律的に地域の政治的安定を回復できずにいる。その結果、西アジア地域は紛争が多発し国際テロを輸出する不安定要素としてネガティブな評価が定着する一方、偏見を排して西アジア世界を根源的・本質的に理解しようとする努力は十分に行われていない。西アジア世界の正しい理解は、数年規模の政治的・経済的動向を分析するような近視眼的アプローチでは不可能であり、その歴史、社会、文化を古層から現代にいたるまで、多角的に分析しようとする姿勢が必要である。

本イニシアティブは、考古学・歴史学・言語学・地球科学・人類学・地域研究など多様なディシプリンによって西アジア世界を研究する学内外の研究者を連携させ、西アジア文明の古層と本質を学際的手法で掘り起こそうと試みる。これによって、その安定が地球規模の課題である西アジア地域の根源的理解に向けて、イスラームに対する偏見や「文明の衝突論」のような西アジアと西欧を対立軸上に捉える言説を単純に受容する風潮を廃し、農耕・牧畜・冶金・書字法といった革新的技術の発生、都市・国家という社会システムの誕生、多神教と一神教の思想と文化の発展・変遷、といった西アジアが他地域に先駆けて経験した文明史のビッグ・データを分析することで、西アジアの本質的理解に貢献する。